



入浴のための基礎知識

+plus 貸与・販売事例集 2012

第一版

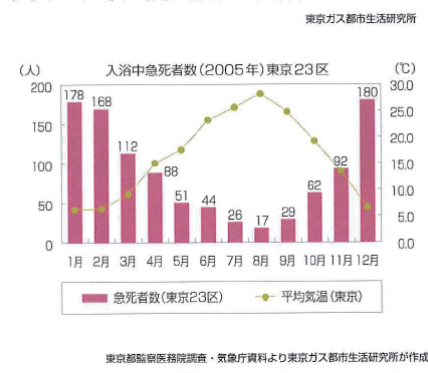
株式会社ライフ・テクノサービス

事務処理センター 〒514-0821 津市垂水686
TEL 059-226-8217 FAX 059-226-8240

事業所:

担当:

グラフ1 / 寒い時期に急増する入浴中死



入浴の目的

入浴の目的は、身体を清潔にする保清だとおもわれるかもしれませんが、そのほかにも、冷えた身体を温める、リラックスするなどの目的もあります。また、夏場は保清が中心となりますが、寒い冬場は身体を温めることとリラックスする目的が中心になる、というように時期によっての使い分けをすることもあります。

浴槽のまたぎが困難になってきた高齢者の方が自宅での入浴を希望されたときの入浴方法としてシャワー浴が多いとされていますが、シャワー浴では全身をあぶることができないため、シャワーを当てたまま洗髪や洗体を行うこととなります。この入浴方法では、浴室内暖房の有無が、快適に入浴できるかどうか関係してきます。また、シャワー浴だけでなく入浴中の血圧変化の点からも浴室内暖房が必要と考えられます。

で支援することも多くあります。特に住宅改修ではユニットバスに取り替えて手すりを設置すれば入浴が楽になるのではないかと安易な工事を行うこともあるようですが、人によって入浴の仕方は様々ですし、介護の仕方も様々です。介護者のスペースをどこにすると介護がしやすくなるのかを考えた上で、用具との兼ね合いを検討し、必ず入浴動作のシミュレーションを行うことが必要です。

快適に入浴するために

自宅で快適に入浴するためには、入浴事故が無いように安全に入れるよう配慮しなければなりません。寒い脱衣所では血管が収縮するために血液は心臓、脳、消化器官などの臓器に偏っています。さらに脱衣場の温度が低い場合は、入浴前に血圧上昇が起こり、入浴後、およそ4、5分たった頃、収縮期血圧（最高血圧）は入浴前より低下するといわれています。また、水中では大気圧に比例した水圧が働き、水圧によっては全身浴では胸部と腹部は収縮し心臓への負担は増加するといわれています。

入浴の方法

入浴の方法は、入浴する場所により、自宅入浴と施設入浴に分けられます。自宅入浴ではシャワー浴、浴槽内入浴（全身浴）、ミストサウナ浴があります。

自宅入浴の利点は

- ①入浴頻度が高くなる。
- ②好きなだけゆっくりと入浴できる。
- ③自分の生活時間帯に入浴できる。

などがあげられます。

欠点としては

- ①家族の負担が増加する。
- ②改修工事の内容によっては一時的に費用負担がかかる。

などがあげられます。

施設入浴の利点は家族の負担は軽減しますが、

欠点としては、

- ①好きな時間帯に入れない。
 - ②通所回数しか入浴できない。
 - ③ゆっくりと入浴できない。
 - ④プライバシーが守られない場合がある。
- などがあげられます。

入浴動作

入浴動作を検討するにあたって必要なことは、

- ①本人の身体機能を把握すること。
 - ②住環境を把握すること。
 - ③必要な福祉用具の検討を行うこと。
 - ④介護力及び介護動作の把握を行うこと。
- の4要素に対する検討が必要です。入浴動作というものは浴槽をまたぐ動作だけではありませ

- ①浴室までの移動
 - ②衣類の着脱
 - ③身体の洗い方
 - ④浴槽への出入り
- という4つの動作をどのように解決するかがポイントになります。

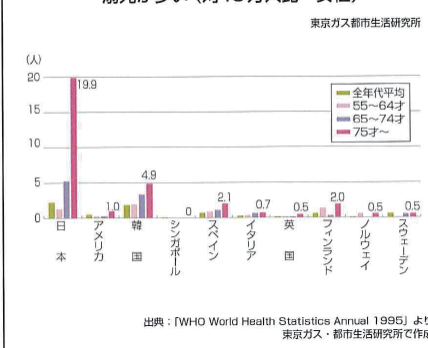
1 浴室に行くまでの動線の確認

日頃いる場所から浴室までの動線を確認しましょう。ドアには敷居や沓すり（ドアの下枠）があります。この小さな段差をどのような移動形態で移動すると安全か、ドアの開閉に不便はないかなど、聞き取りだけでなく実際に試してみることが必要です。また、このときには、入浴前はどの部屋にいて、入浴後はどの部屋に行くのかも確認します。人によって、何時頃入浴するか、どれくらい時間をかけるかなども確認し、入浴支援後、どのくらい入浴が楽になったかの把握をすることが大切です。

入浴支援の特徴

入浴に対する支援は、入浴用いすや浴槽用手すりなど福祉用具との併用を必要とし、住宅改修

グラフ2 / 日本は後期高齢者（75才以上）の溺死が多い（対10万人比・女性）

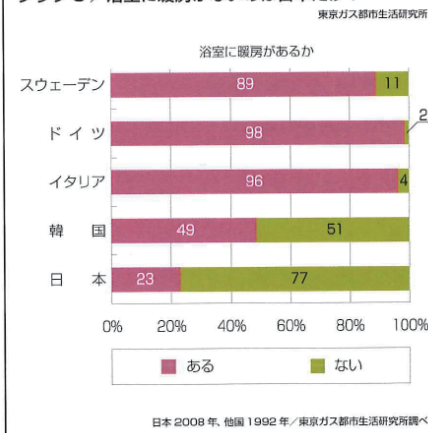


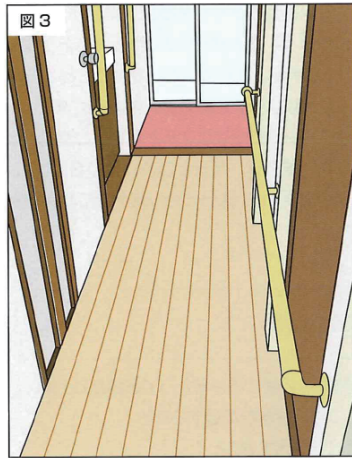
ヒートショック

自宅で快適に入浴するためには、入浴事故がないよう安全に入れるように、配慮しなければなりません。入浴事故でよくきく言葉の中にヒートショックという言葉があります。これは、急激な温度差が身体に与える衝撃のことです。入浴中の事故で死亡する人は交通事故で死亡する人よりも多いといわれています。

グラフ1により、12月から3月の入浴死亡者数が多いことがわかります。グラフ2では日本の後期高齢者は諸外国に比べて溺死が多い、グラフ3はスウェーデン、ドイツ、イタリアは約90%の浴室に暖房があるのに比べて、非本は23%しかありません。

グラフ3 / 浴室に暖房がないのは日本だけ？

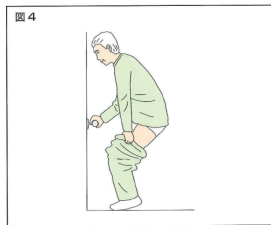




段差解消の方法には、ドアの杻すり撤去・床のかさ上げ・かさ下げ・すりつけ板（高い部分と低い部分とにわたす楔形の板）設置などがあります。（図3）

2 移動方法の確認

利用者の移動方法が、伝い歩き（壁などに手をかけ、それに沿って歩くこと）か、T杖歩行か、4点杖歩行か、歩行器歩行か、車いす自走か介助走行か、シャワーキャリーで移動するかなど実際の方法が安全か実用性があるか、他の移動方法がよいかを検討します。



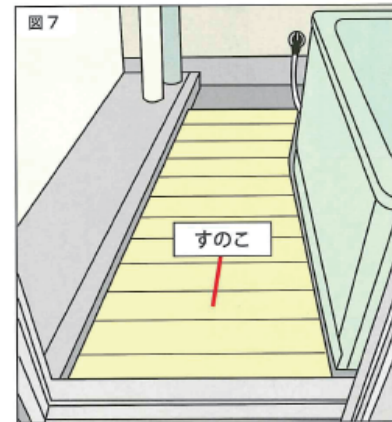
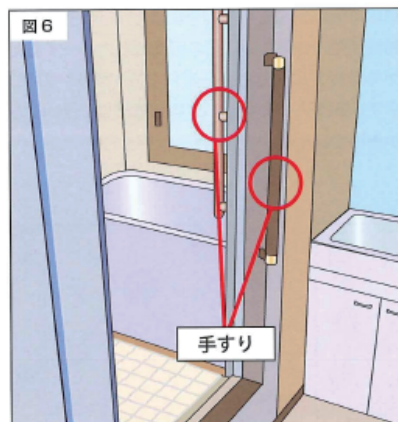
3 脱衣室での確認

着脱衣を行うときには立位バランスがよいかどうかにより、対処方法が異なります。立って着脱衣をする場合にはすりを設置し（図4）、座って行うときには背もたれ付きやひじ掛けつきのいすを使用するとよいでしょう。（図5）場合には、居室・寝室での着脱衣という方法もあります。



4 浴室の出入り動作の確認

浴室の出入り動作の時には、利用者本人の歩行機能と、浴室出入口の段差の状況などの環境によって対応が変わります。浴室の内外にすりを設置する方法（図6）は段差昇降が実用的な人に対して、浴室床を上げたり、下げることができない場合に行います。段差解消の方法としては、浴室洗い場にすのこを敷く方法（図7）がありますが、すのこにカビが生えやすいこと、掃除が高齢者にとって大変であるという欠点があります。また、すのこを敷くと洗い場と脱衣所をまたぐのではなく、上がり下がりをするという動作に変わります。大腿部筋力低下や膝に痛みがある人にとっては上り下りの方がつらいことがありますので注意しましょう。その他の段差解消方法としては、洗い場をかさ上げて脱衣室との段差がなくなった場合にはグレーチング（図8）をおこなって水が脱衣所に流れないようにする方法や、



バリアフリータイプユニットバス（図9）であらかじめ段差をとる方法があります。

5 浴槽のまたぎ動作の確認

浴槽の中に入る方法としては、立って入る方法・座って入る方法・リフトで入る方法があります。手すりを設置して立ってまたぐのか、入浴用いすを浴槽のふちの高さに合わせて座ってまたぐのか、立位またぎも座位またぎも困難な場合にはリフトで入る方法はどうか、など安全性と無理な介護をしないようにまたぎ方法の検討を行います。

6 またぎ動作

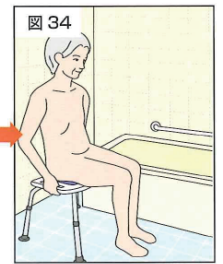
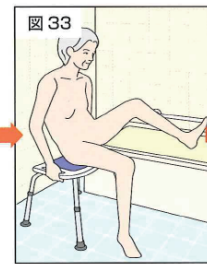
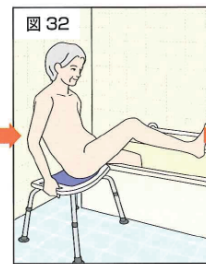
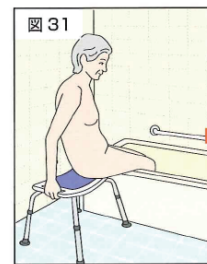
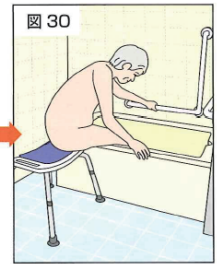
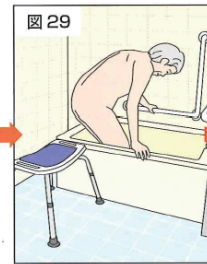
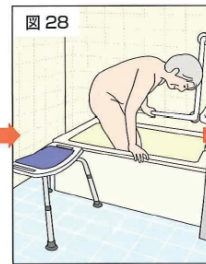
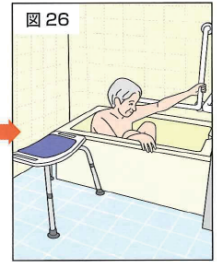
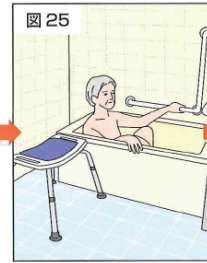
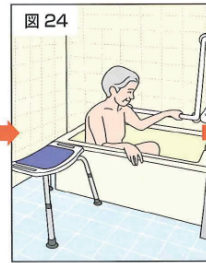
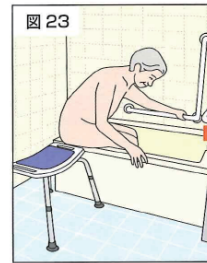
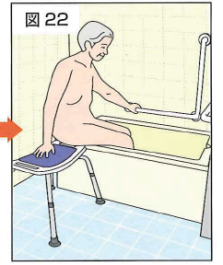
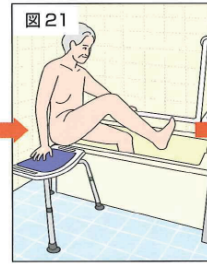
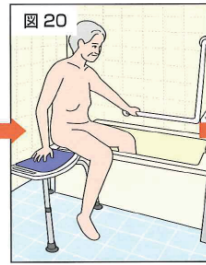
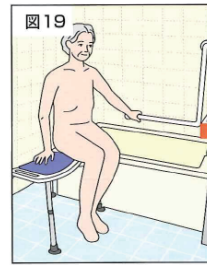
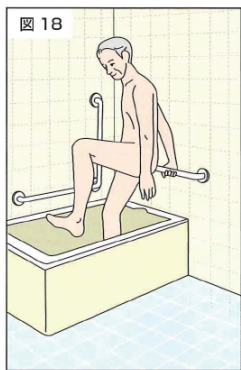
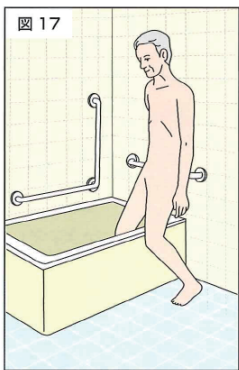
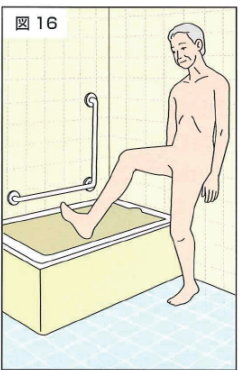
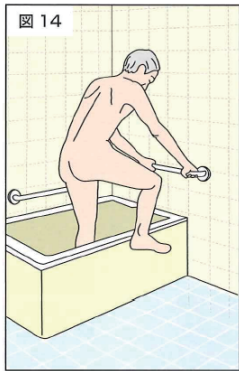
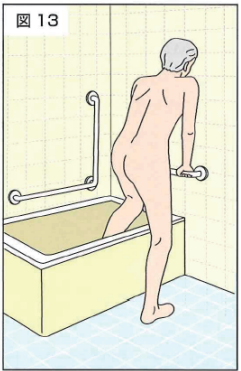
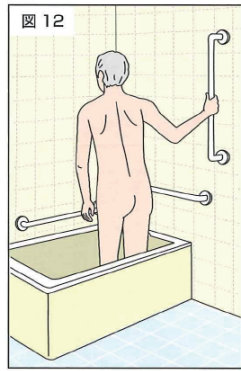
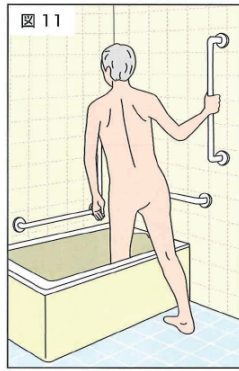
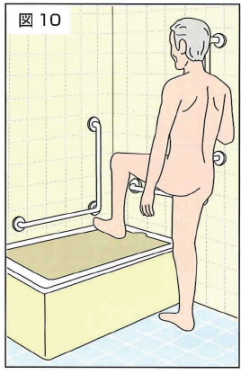
①立位またぎ

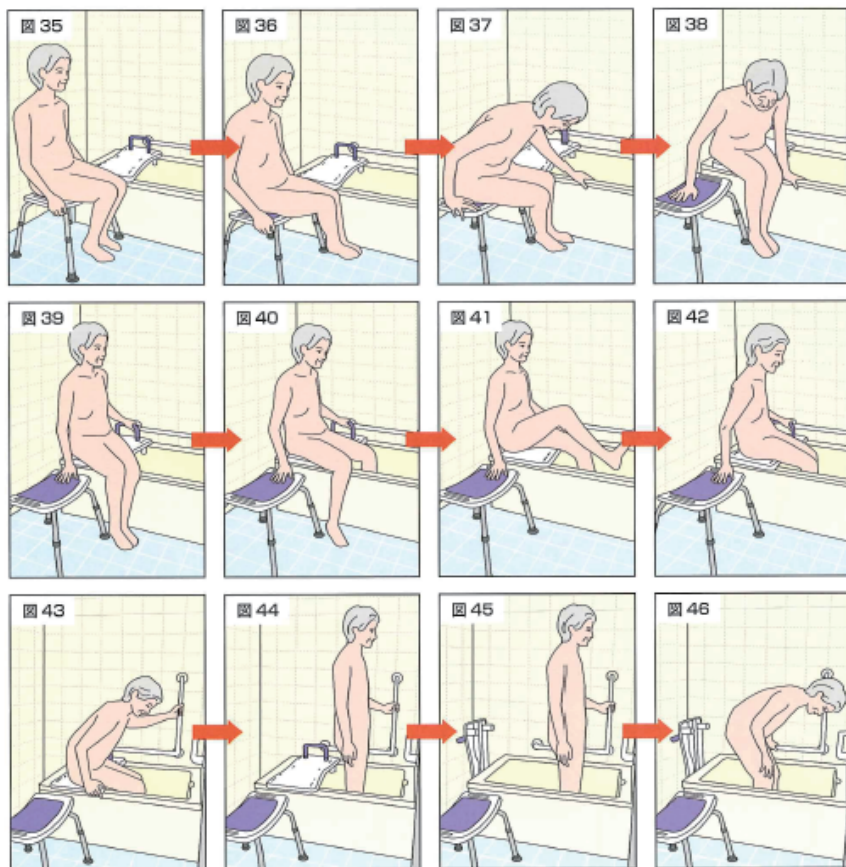
立位またぎには、正面またぎ・側方またぎ・側方足上げまたぎの3つの方法があります。正面またぎの方法は、図10から図12のようになりますが、足を正面に上げますので股関節の可動域を確認しなければなりません。足を上げるときは体幹（胴体）を起こしておかないと高く上げられませんので、手をつかまるところはおおむね肩の付近につかまりやすいように手すりを設置するとよいでしょう。

また、正面またぎの場合、またぎこすときに身体が回転することがあるので、またぎときのバランスの良さ悪しを確認しましょう。

側方またぎの方法は、図13から図15のようになりますが、足を上げるとき両手に体重をかけると安定して足を上げることができますので、手すりは浴槽のふちから300mm前後で両手で支えやすい高さに設定するようにしましょう。

側方足上げまたぎの方法は、図16から図18のようになりますが、このまたぎ方は股関節や膝関節に可動域制限がある場合によく行われます。可動域制限があるためにその可動域をカバーするため身体を後方に倒しながらまたぎが多いため、手すり設置位置も十分に動作を確認して行ったほうがよいでしょう。

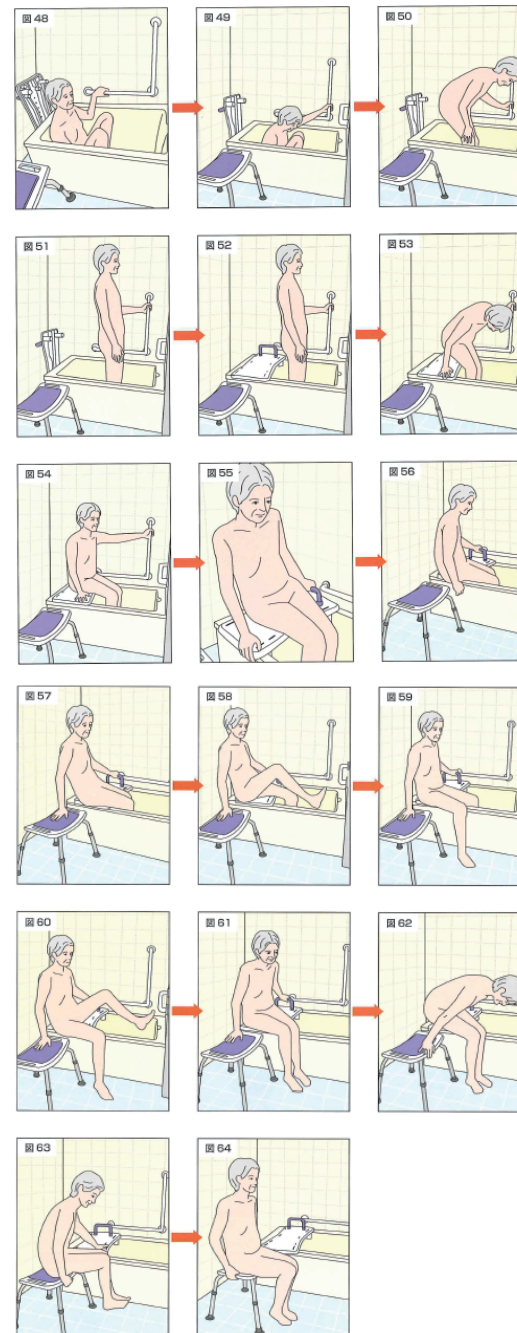




②座位またぎ

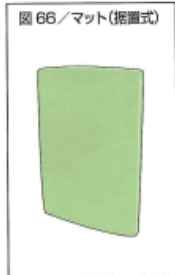
入浴いすや以上代を浴槽のふちの高さに合わせて設置し、座ったまま身体を回転させてまたぐ方法で、図 19 から図 34 のようになります。注意していただきたいのは、図 19 のように浴槽のふちに一度腰掛けるようにすると、片足を浴槽に入れたときに浴槽底に足が着きやすくなります。この座り直しができるかどうかで座位またぎが実用的か、介護力がどの程度必要かわかります。

入浴台（バスボード）を浴槽のふちに渡し、バスボードに腰掛けてから身体を回転させてまたぐ方法は、図 35 から図 64 のようになります。バスボードを使用してまたぐ方法では、バスボードの着脱を介助者が行わなくてはいけない、小柄な利用者の場合、バスボードに腰掛けるとよくそうそこに足が着かなくなり、座位バランスが悪いと使いにくいという欠点があります。



③浴槽内立ち上がり

浴槽の中で温まっているときは少し膝を伸ばしてリラックスしていると思います。しかし、この姿勢で立ち上がろうとしても重心が後方にあるために立ち上がることができないか、立位姿勢が不安定になってしまいます。浴槽の中から立ち上がる時には、足を引いて（膝を十分に曲げて）お辞儀をしながら足に体重をかけて立ち上がる（図 48、図 49）と、浮力を利用して立ち上がりやすくなりますので、自分で立つときばかりでなく、介助者の方は本人に立ち上がっていただくときに、できるだけ本人の膝を曲げていただくようにしましょう。



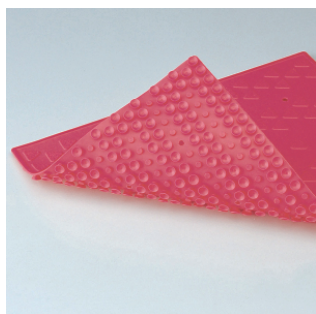
浴室で使用する福祉用具

1 浴室の出入り動作の確認

浴槽の中に敷き、立ち上がる時の滑り止め、および入浴時の着座姿勢を安定させ、おしりが前方にずれるのを防ぐ目的で使用します。特に、麻痺がある方の場合には、患側（麻痺している側）の足が浮きやすいので、入浴姿勢を安定させることによって、入浴時の不安を解消することができるようになります。したがって、立ち座りのときの滑り止めだけでなく、入浴姿勢を安定させ、おしりがずれて足が浮かないように、滑り止めマットの大きさも大きめのものを選ぶとよいでしょう。滑り止めマットには、吸盤式（図 65）や据置式（図 66）があります。

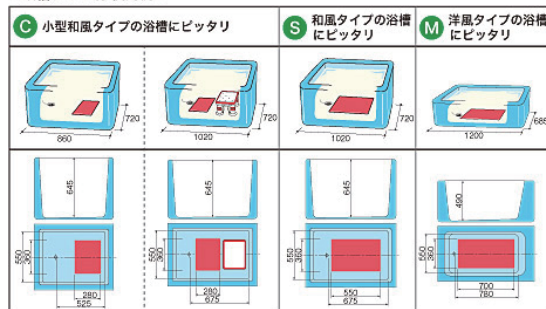
【福祉用具購入事例】[浴槽内専用]吸着すべり止めマット

・たくさんの吸盤で設置面に強力に吸着します。



商品名	サイズ	販売価格（税込）
吸着すべり止めマットC (2枚入)	幅 28× 奥行 36× 厚さ 0.8cm	¥ 3,255
吸着すべり止めマットS	幅 55× 奥行 36× 厚さ 0.8cm	¥ 3,780
吸着すべり止めマットM	幅 70× 奥行 36× 厚さ 0.8cm	¥ 4,725

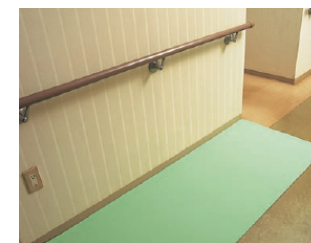
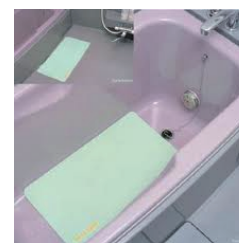
<浴槽タイプ別 使用例>



【福祉用具購入事例】すべり止めマット オーバルリンク

・転倒予防の目的に長期間機能を発揮する。

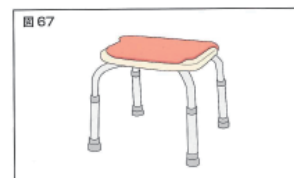
商品名	サイズ	販売価格（税込）
オーバルリンク マット /L	幅 38 cm × 長さ 70 cm 1.3kg 厚さ 0.2 cm ※売れ筋！浴槽に沈みます。	¥ 6,090



2 入浴用いす（シャワーチェア）

入浴用いすは一般的にシャワーチェアとよばれ、洗体・洗髪の際に座るいすで、立ち上がり能力が低下した人が使用するためのものです。入浴用いすには、背無タイプ（図 67）、背付きタイプ（図 68）、肘掛け付きシャワーチェア（回転・肘掛はね上げタイプ）（図 69）、折りたたみタイプ（図 70）などがあります。

【福祉用具購入事例】コンパクト折りたたみシャワーベンチIC（背無しタイプ）



特定福祉用具

・超コンパクトな背無しタイプの折りたたみシャワーベンチ



商品名	サイズ	販売価格（税込）
コンパクト折りたたみシャワーベンチIC（背無しタイプ）	幅 41× 奥行 40× 高さ 33～43cm（座面までの高さ 33～43cm）（折りたたみ時：幅 41× 奥行 26× 高さ 55.5cm）	¥ 16,800 (自己負担額) ¥ 1,680-

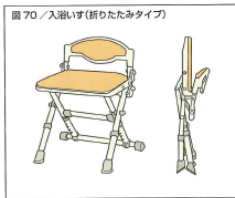
【福祉用具購入事例】コンパクト折りたたみシャワーベンチIC(背付タイプ)



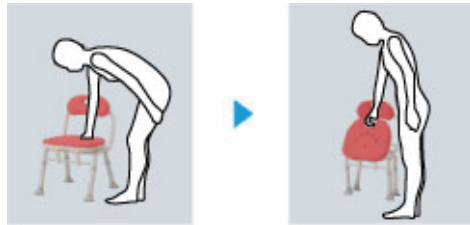
特定福祉用具

・狭い洗い場でも介助スペースを確保できます。

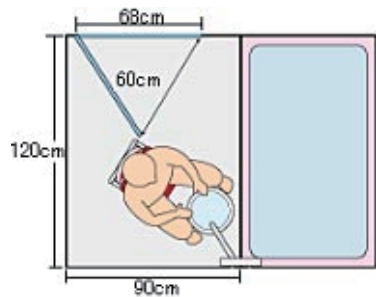
商品名	サイズ	販売価格（税込）
コンパクト折りたたみシャワーベンチIC（背付タイプ）	幅 41× 奥行 40× 高さ 57～67cm (座面までの高さ 32～42cm) (折りたたみ時：幅 41× 奥行 27× 高さ 67cm)	¥19,425 (自己負担額) ¥1,943-



●片手ですばやく折りたたみできます。

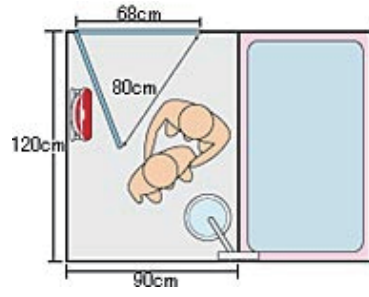


●狭い浴室への出入りや介助スペースの確保が可能
<120×160タイプ (0.75坪) の浴室での設置イメージ>



▲[通常使用時]

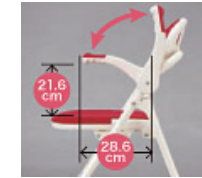
内開きの扉でもシャワーベンチを設置した状態で出入りが可能な開口寸法を確保できます。



▲[折りたたみ時]

介助者がいる場合でもシャワーベンチを折りたたむことによって、扉の開閉スペースを十分に確保することができます。

【福祉用具購入事例】折りたたみシャワーベンチTS/TU



特定福祉用具

・移乗に便利なひじ掛け跳ね上げ式の折りたたみシャワーベンチ。

商品名	サイズ	販売価格（税込）
折りたたみシャワーベンチ TS/TU	幅 52× 奥行 50× 高さ 67～77cm (座面までの高さ 35～45cm) (折りたたみ時：幅 52× 奥行 16× 高さ 80cm)	¥21,000 (自己負担額) ¥2,100-

【福祉用具購入事例】折りたたみシャワーベンチIS/IU

特定福祉用具

・片手で持ち上げるだけで折りたためる、転倒防止のための新しいシャワーベンチ。



商品名	サイズ	販売価格（税込）
折りたたみシャワーベンチ IS/IU	幅 51× 奥行 46× 高さ 64～74cm (座面までの高さ 35～45cm) (折りたたみ時：幅 51× 奥行 29× 高さ 87cm)	¥25,200 (自己負担額) ¥2,520



【福祉用具購入事例】ひじ掛け付シャワーベンチ K-TH“くるり130”



特定福祉用具

・移乗や介助に便利な回転式座面と跳ね上げ式ひじ掛け。

商品名	サイズ	販売価格（税込）
ひじ掛け付シャワーベンチ K-TH “くるり 130”	幅 55.5× 奥行 50× 高さ 67 ～ 82cm（座面までの高さ 36 ～ 51cm）	¥ 28,875 （自己負担額） ¥ 2,888

ポイント 移乗や介助に便利な回転式座面

介助での入浴

座面を回転させることで、体の正面で、立ち座りの介助ができます。

一人での入浴

座面を回転させると、背中を洗うのもラクに行えます。

ロック解除レバー

高さ最低 36cm

高さ最高 51cm

小柄な方から膝関節症やリウマチ等高い座面が必要な方まで対応します。（36～51cm・7段階）

●跳ね上げ式ひじ掛け

移乗時にじやまにならず、スムーズに動作を行います。

●幅広い座面高調節範囲

高さ最低 36cm

高さ最高 51cm

小柄な方から膝関節症やリウマチ等高い座面が必要な方まで対応します。（36～51cm・7段階）

3 浴槽台（図 71）



浴槽台は、浴槽内での立ち座りを容易に行うことができるようにしたり、浴槽への出入りを楽にするためのものです。浴槽台の特徴としては、

- ①立ち上がりがしやすくなる。
- ②またぎやすくなる。

…という利点もありますが、

- ①肩でお湯につかることができなくなる。
- ②浴槽台のメンテナンスが必要になる。
- ③浴槽台の上で方向転換するには足場が狭くなる。
- ④浴槽台に乗ると浴槽内に段差が生じる。

…という欠点もあります。

心臓の弱い方、高齢により体力が落ちてきた方など腰湯のほうが安全に入浴できるという視点で入浴方法の習慣を変えることも必要でしょう。

【福祉用具購入事例】ステンレス製浴槽台R“あしびた”シリーズ[標準タイプ]

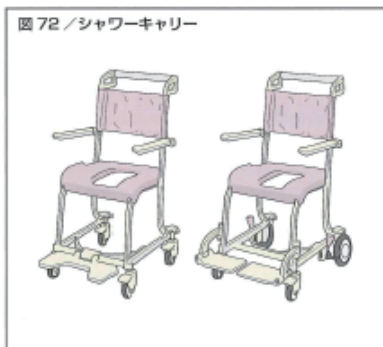


高さ調節は、調節しやすいピン差し込み方式（ピンは、差し忘れを防ぐため赤色を採用）。※ブルーは青色です。

特定福祉用具

・浴槽の広さや深さ、使用状況に応じて浴槽台の種類をお選びいただけます。

商品名	サイズ	販売価格（税込）
ステンレス製浴槽台R“あしびた”シリーズ[標準タイプ] 15-20	幅 41.5× 奥行 34× 高さ 15・17.5・20cm（3段階）	¥ 16,800 （自己負担額） ¥ 1,680-
ステンレス製浴槽台R“あしびた”シリーズ[標準タイプ] 20-30	幅 41.5× 奥行 34× 高さ 20・22.5・25・27.5・30cm（5段階）	¥ 17,850 （自己負担額） ¥ 1,785-



4 シャワーキャリー (図 72)

シャワーキャリーは、シャワーチェアの足にキャスターや車輪がついているもので、居室や脱衣所から洗い場への移動のためと、洗体を行うために使用されます。シャワーキャリーを使用して移動するとき、キャスターや車輪径が小さいため、少しの段差でも移動しにくくなります。沓ざり撤去、スロープ設置など動線上での段差解消をおこなうとともに、小さな段差の場合、シャワーキャリーを後方に引きながら移動すると乗り越えやすくなります。

【福祉用具購入事例】入浴介護シャワーキャリー KSC-2 カムラサイクル



特定福祉用具

コンパクトなので、狭い浴室でもラクラク移動！
 8インチの前輪で段差乗り越えも楽です。
 全長が短いので在宅にも使用できます。
 肘掛け跳ね上げ小回りがききます。
 ステップ部は場所をとらない前後スライド式
 折りたたみ式
 キャスターロック付

商品名	サイズ	販売価格 (税込)
入浴介護シャワーキャリー KSC-2 カムラサイクル	サイズ 幅 46×奥行 65×高さ 86cm 座面 幅 36×奥行 38cm 座面高 40cm 重量 6.9kg	¥ 55,440 (自己負担額) ¥5,540-



5 浴槽用手すり (図 73)

浴槽用手すりは、浴槽のふちに挟みこんで使用する手すりです、主に立位またぎのときに使用します。また、両手でつかまりやすくなっている形状のものもあります。(図 74、75)

【福祉用具購入事例】浴槽手すり UK-80R/UK-115R



特定福祉用具

浴槽への出入りと、浴槽内での姿勢保持をサポート。

商品名	サイズ	販売価格 (税込)
浴槽手すり UK-80R	幅 20×奥行 21×高さ 34cm	¥ 16,800 (自己負担額) ¥1,680-
浴槽手すり UK-115R	幅 20×奥行 24×高さ 34cm	

ポイント1 両手でしっかり握れるグリップ形状

グリップを両手でしっかりと握れるので浴槽への出入りを安心して行えます。

ポイント2 浴槽内に傾斜した内グリップ

内グリップが浴槽内側に傾斜しているため無理なくつかめて身体を安定させることができます。

風呂フタができる

浴槽に取り付けたまま風呂フタができます。

【福祉用具購入事例】高さ調節付浴槽手すりUST-130

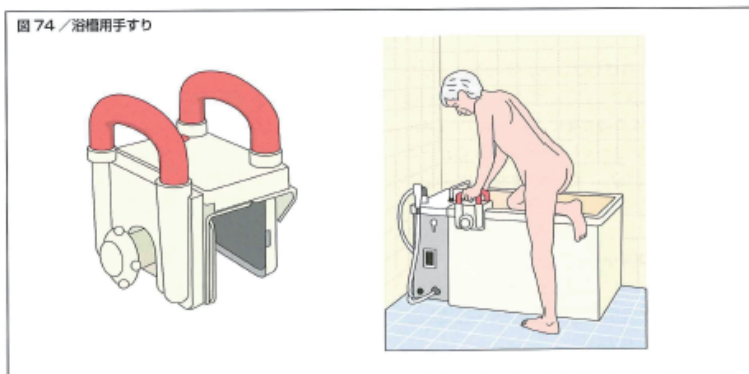


特定福祉用具

身長や浴槽壁の高さに合わせてグリップの高さを選べます。

商品名	サイズ	販売価格（税込）
高さ調節付浴槽手すり UST-130	幅 20× 奥行 27～33× 高さ 37～39cm	¥ 17,850 (自己負担額) ¥1,785-

図 74 / 浴槽手すり



【福祉用具購入事例】ツイン浴槽手すり

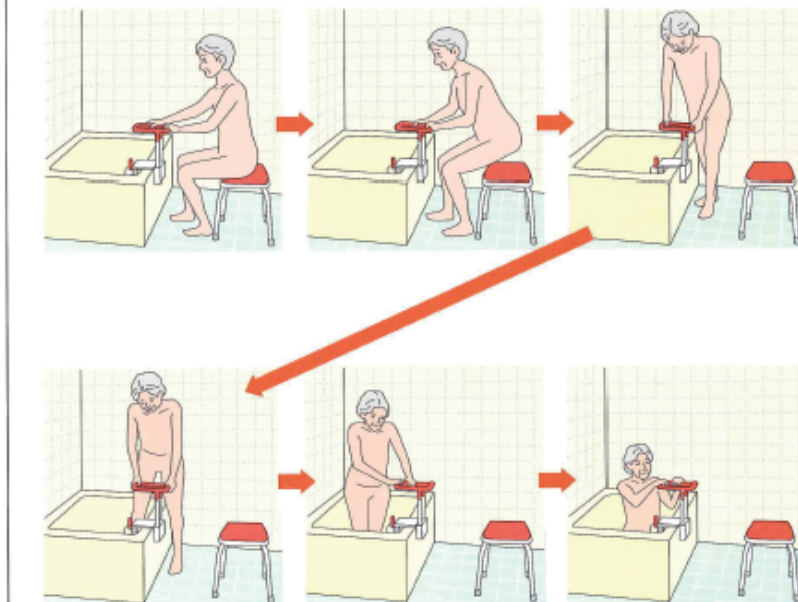


特定福祉用具

両手でしっかり握れ、浴槽への出入りをラクにします。

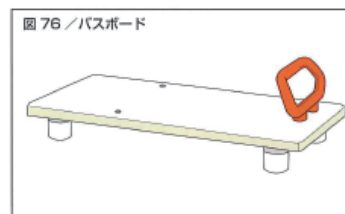
商品名	サイズ	販売価格（税込）
ツイン浴槽手すり	幅 18× 奥行 19～25× 高さ 22cm	¥ 25,725 (自己負担額) ¥2,573-

図 75



6 バスボード (図 76)

図 76 / バスボード



バスボードは浴槽のふちにまたがせて、座った姿勢で浴槽の出入りをするためのボードです。(図 77) 浴槽の外寸や、内寸を調べて、そのサイズに合ったものを選ぶようにします。ボードの厚さは立ち座りの動作に影響し、浴槽の深さと本体の暑さを加味した高さで考えなければなりません。また、入浴中に設置したり、取り外ししたりしますので、介助者ができるかどうかを検討しましょう。

バスボードはできるだけ薄く、軽いものの方がいいでしょう。また、滑りやすさと回転のしやすさも選ぶときのポイントとなります。

もともと、北欧で開発されたバスボードは、腰掛けてシャワーを浴びるためにつくられました。それを日本では、取外しをすることにより浴槽の中で温まるという日本の習慣を取り入れて使われています。

図 77



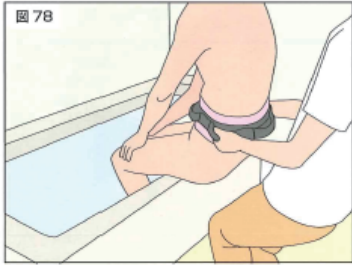


図 78

7 入浴用介助ベルト

入浴用介助ベルトは、身体に直接巻きつけて浴槽の出入りなどを介助するものです。立てない方を持ち上げるのではなく、立ち上がり時にバランスが不安定になる方に使用すると、安全に使用することができます。(図 78)

【福祉用具購入事例】入浴用介助ベルト



特定福祉用具

起立介助の負担を軽減。

商品名	サイズ	販売価格(税込)
テイコブ 入浴用介助ベルト (S/M/L)	例) Lサイズ 幅 18×長さ 150cm 適用胸囲約 90～130cm	¥12,075 (自己負担額) ¥1,207-

8 浴槽内昇降機

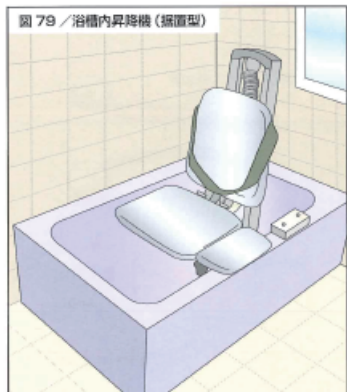


図 79 / 浴槽内昇降機(据置型)

浴槽内昇降機は、浴槽に取り付け、座面部分が上下に昇降し、浴槽内での立ち座りを補助するためのものです。浴槽の出入りは、座位またぎになりますので、座位またぎを補助するためのものではありません。

浴槽内昇降機には、据置型(図 79)と固定型(図 80)があります。

浴槽内昇降機を使用した入浴動作は、

- ①入浴台に腰掛ける(図 81)
- ②昇降機に腰掛け片足を浴槽の中に入れる(図 82)
- ③身体を回転して浴槽をまたぐ(図 83)
- ④昇降機座面の中央に座りなおす(図 84)
- ⑤座面を降下させる(図 85)



図 79 / 浴槽内昇降機(据置型)

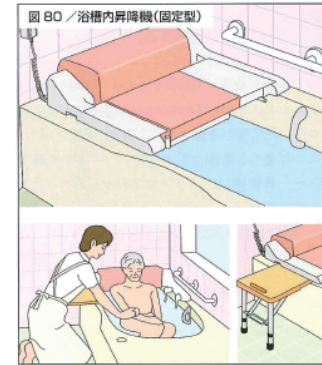


図 80 / 浴槽内昇降機(固定型)

福祉用具貸与

浴槽での立ち座りや出入りをサポートします。電動でシート部分が昇降するため、入浴介助の負担も軽減します。

商品名	サイズ	自己負担額/月
TOTOバスリフト	幅 645～760×奥行き 575×高さ 150mm	¥1,400/月

⑥座面を上げる(図 86)

⑦入浴台へ腰掛ける(図 87)

⑧片足を浴槽から出す(図 88)

⑨身体を回転して浴槽をまたぐ(図 89)

⑩入浴台へ座る(図 90)

…という動作になります。

浴槽内昇降機の適応としては、座位またぎを行いますので、

①座り直しが可能な方

②座位バランスがよい方

③座位移乗が可能な方

④浴槽内立ち座りが大変な方

になると考えられます。

【福祉用具貸与事例】バスリフト

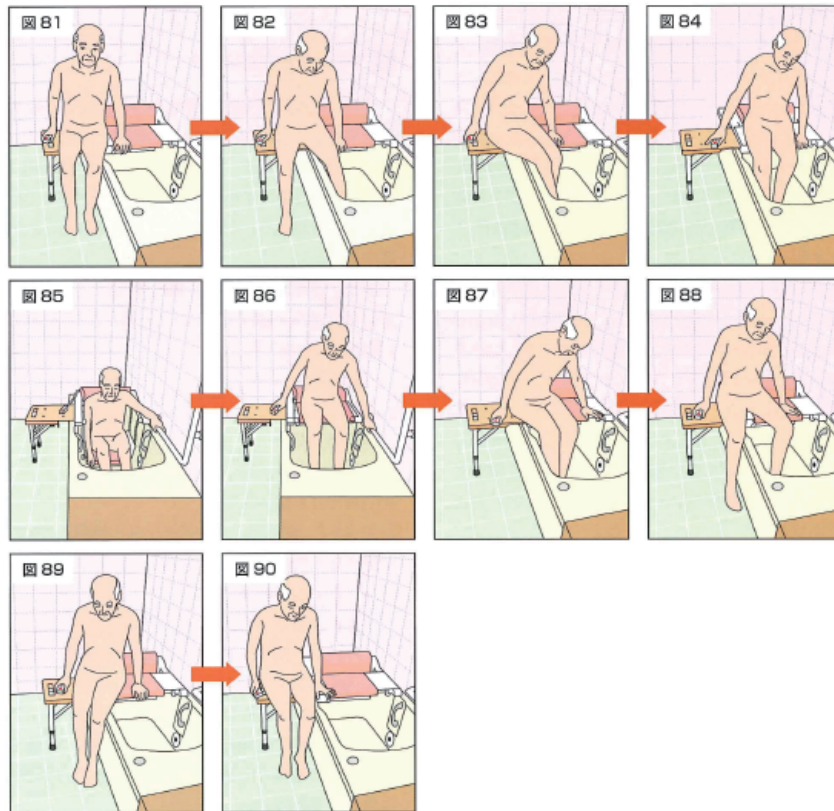


福祉用具貸与

簡単に設置でき、吸盤にて固定します。吸盤を改良し、取り外しが容易になりました。片手でも簡単に行えます。

商品名	サイズ	自己負担額/月
ラクヨーコン	幅 38×奥行き 73×高さ 101cm、座面：幅 38×奥行き 30cm	¥1,500/月





身体機能別入浴方法

身体機能を歩行・洗体自立レベル、歩行船体解除レベル、リフト使用レベルに分けて考えてみますが、利用者の年齢や疾患、麻痺の程度によりレベルが変わる可能性があります。主治医や理学・作業療法士の方々と十分な打ち合わせと、必要に応じて予後予測を行いながら検討されるとよいでしょう。



1 歩行・洗体自立レベル

一人で入浴可能な方が安全に入浴するには、手すりの設置と入浴用いすの使用が多く行われます。このレベルの方は、自分で身体を洗うことができるので入浴用いすは水栓金具のほうを向けて使用します。まず、入浴用いすをどこに置くか検討してから、手すりの設置位置を検討しましょう。

また、入浴用いすの置き場も検討しなければなりません。洗い場内の移動は入浴用いすを洗い場に置いたまま行うのか、入浴用いすを浴槽のふたの上に置いたまま行うのか、折りたたみタイプを使用しましょう。

入浴用いすを使用して身体を洗うとき不便になることとして、『つま先が洗いにくくなった』といわれることが多くあります。座面から高くなり、つま先を洗うときに頭が下がってしまうこと、身体を全屈したときに腹部への圧迫が生じてしまうことが原因と考えられます。このような場合には、たとえば今まで使用していた低い腰掛け台などに足を乗せて洗ったり、洗体ブラシ・洗体タオル（図91）などがあります。

2 歩行・洗体介助レベル

歩行・洗体に介助が必要な場合に考慮しなければならないことは、入浴用いすの配置と介助スペースの確保になります。洗い場が狭く水栓金具に向かって入浴用いすを置くと介助スペースがなくなる場合、介助スペースの確保が優先されることが多いでしょう。

歩行・洗体自立レベル同様に、入浴用いすの設置場所が決まってから、移動に対する手すりの設置の検討をします。

介助の中には

- ①船体の介助
- ②歩行の介助
- ③浴槽またぎの介助
- ④浴槽内立ちすわりの介助

があります。洗体時の介助スペースの確保と共に浴槽またぎ動作の介助を考慮した入浴用いすの置き方も必要になります。

片麻痺の方が浴槽またぎを行う場合、健側から入る方法が一般的です。その理由は、患側からお湯に入ると感覚障害を起している方の場合、やけどの危険性があること、患側方向へバランスを崩した場合に危険だからです。しかし、浴槽を出るときには患側からなので、介助に注意が必要です。

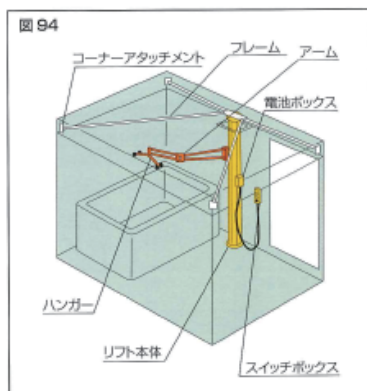


3 リフト使用レベル

浴室用リフトにはアームの軸が1関節のもの(図92)と2関節(図93、94)のもの、面レール(図95)のものがあります。

1関節のものは洗い場と浴槽の間の移動に使用します。2関節のものは1関節のものに比べて自由度が増し、脱衣室・洗い場・浴槽への移動に使用することができる場合があります。面レールのものはさらに自由度が増します。

リフトを使用するレベルの方はおおむね脱衣室までの移動は車いすで移動するかシャワーキャリーで移動しますので、その動線は段差を解消しなければなりません。(住宅改修事例集参照)



【福祉用具貸与事例】つるべー

福祉用具貸与

床や壁にネジや釘を使用せず簡単に組み立てできます。
※写真のつり具は含まれません。(別売)

商品名	自己負担額 / 月
つるべーF1 (1関節)	¥1,800 / 月



福祉用具貸与

床や壁にネジや釘を使用せず簡単に組み立てできます。
※写真のつり具は含まれません。(別売)

商品名	自己負担額 / 月
つるべーF2R (2関節)	¥1,800 / 月

【福祉用具購入事例】リフト吊り具(スリングシート)

特定福祉用具



エヴァ/フル

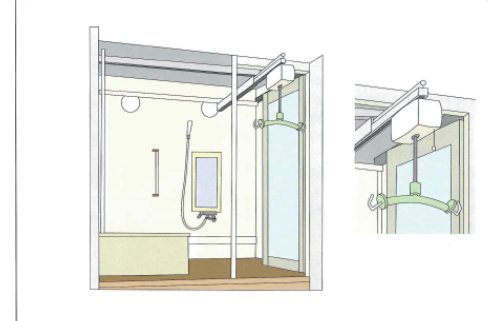
商品名	サイズ	販売価格(税込)
エヴァ/フル	小: 約 135~150cm、 中: 約 150~190cm	¥48,000 (自己負担額) ¥4,800-



エヴァ/ハーフ

商品名	サイズ	販売価格(税込)
エヴァ/ハーフ	小: 約 135~150cm、 中: 約 150~190cm	¥39,000 (自己負担額) ¥3,900-

図95 / 浴室用リフト(面レール)





入浴のための基礎知識

+plus 貸与・販売事例集 2012

第一版